

目次

第1章 序論

- 1 はじめに 1
- 2 本書の視角①：日本統治初期の「翻訳者」 4
- 3 本書の視角②：台湾の言語・エスニシティの可算名詞化 10
- 4 本書の構成 12

第2章 明晰なセンサスカテゴリがあらわれるまで—日本統治初期台湾 総督府の言語の数え方—

- 1 はじめに 15
- 2 土語通訳兼掌制度 19
- 3 1898年土語履修者の調査 23
- 4 台中県「土語通訳ニ関スル辞令按綴」(1898～1901) 30
- 5 おわりに 34

第3章 1905年臨時台湾戸口調査が語る台湾社会—種族・言語・教育を中 心に—

- 1 はじめに 37
- 2 1905年までの戸口調査と臨時台湾戸口調査 44
- 3 1905年臨時台湾戸口調査の準備 51
- 4 種族 55
- 5 言語 61
- 6 教育 68
- 7 おわりに 71

第4章 日本統治開始直後の台湾語をめぐる知的空間の形成

- 1 はじめに 75
- 2 従来からの漢語系言語の学習・研究と台湾語 78
- 3 台湾語の教会ローマ字表記 90

- 4 台湾語教科書の一画期 101
- 5 おわりに 106

第5章 統治の障害としての「通訳」—日本統治初期台湾総督府「通訳」に対する批判—

- 1 はじめに 109
- 2 学友会事件 112
- 3 学友会会員の背景 121
- 4 おわりに 132
- [参考資料] 学友会会員経歴 135

第6章 日本統治初期の台湾総督府翻訳官

- 1 はじめに 145
- 2 1906年の二つの式典 150
- 3 翻訳官の設置まで 154
- 4 翻訳官の経歴・背景 159
- 5 おわりに 167

第7章 短命に終わった台湾語人材養成機関—台湾総督府国語学校語学部土語学科—

- 1 はじめに 169
- 2 土語学科の設立 170
- 3 土語学科生徒の兵役をめぐる交渉 177
- 4 土語学科の苦境 192
- 5 台湾協会学校と台湾殖民行政学校 202
- 6 おわりに 213

終章 おわりに 217

参考文献 225